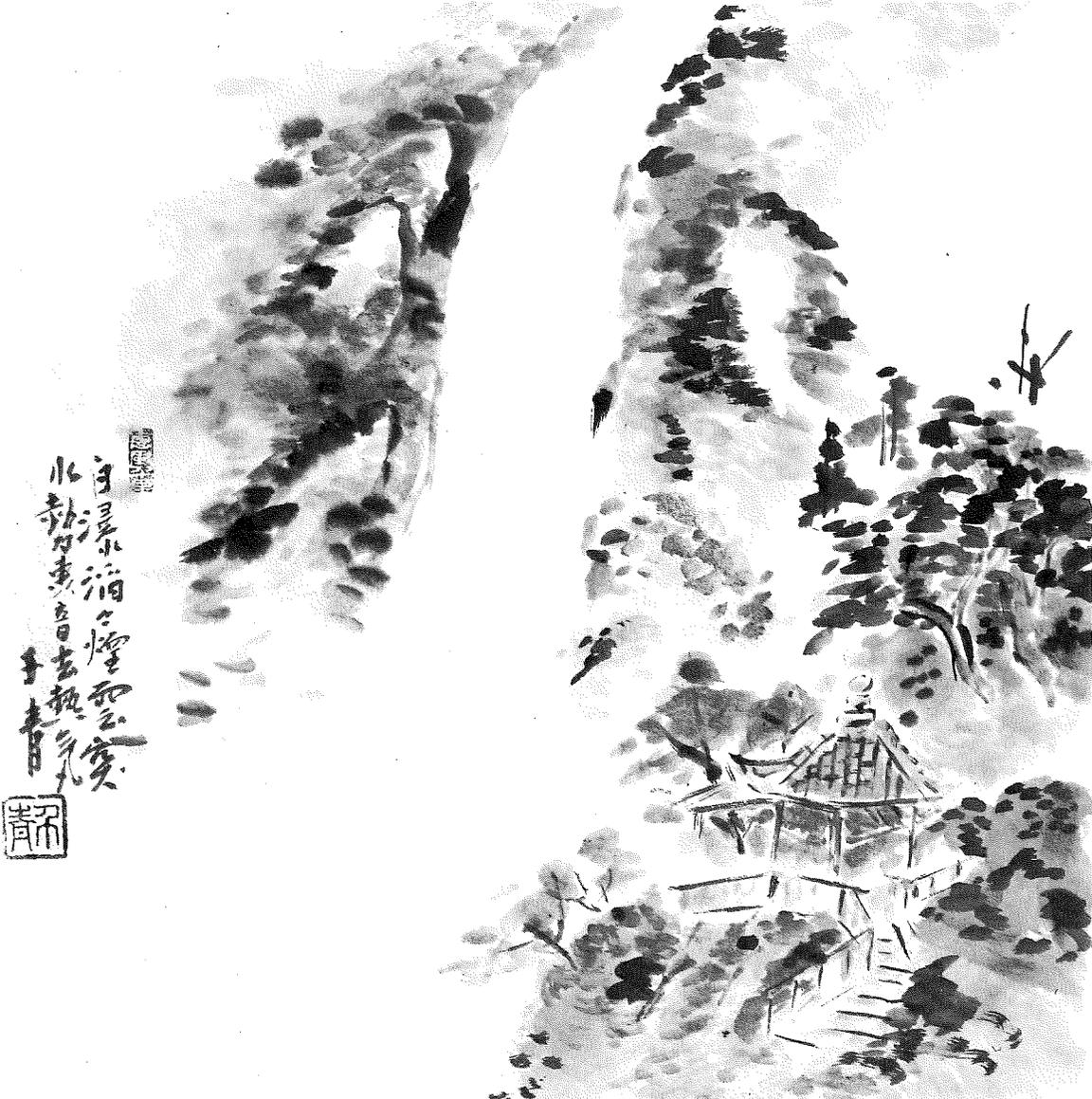


シーリングニュース



自是涼洞々煙和云霞
 北嶺蒼蒼古松
 子青

青



目次

- ◎有識者を迎えての懇談会を開催…………… 2
- ◎外部講師との懇談会…………… 3
- ◎業界動向…………… 4
- ◎シーリング材の動向…………… 5
- ◎本部・支部だよりほか…………… 6
- ◎日本シーリング工業会の概要…………… 7

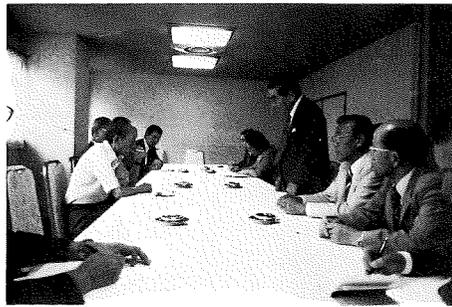
有識者を迎えての懇談会を開催



日本建設材料協会会長
足利工業大学 教授
伊藤 憲太郎

(日本シーリング工業会相談役)

さる7月21日午後2時30分より、東京都渋谷区原宿の東郷記念館において、伊藤先生、波多野先生をお迎えし、当工業会が当面する諸問題について、隔意なく懇談し今後の運営について貴重なご意見をうかがう機会をもった。その概要は次の通り。



千葉大学 名誉教授
波多野 一郎

(日本シーリング工業会顧問)

〈工事保証について〉

現在、シーリング材の種類、用途が多様化し、各種性能の製品が市販されている反面、性能を過信し、使用法を誤り、クレームの発生事例が多く、近年工事保証の問題が真剣にとりあげられるようになった。わが国の建築



青木 済 (日本シーリング工業会会長)
梅沢 芳朗 (同副会長)
梅本 禎治 (同副会長)
御影 博 (同総務委員長)
西沢順之助 (同技術委員長)
金子 譲 (同広報委員長)
細井 庸生 (同広報副委員長)
木田 茂 (同シーリング管理士検定副委員長)



〈シーリング工業会の運営報告〉

会長よりまず会創立以来15年を経過し、会員はシーリング材メーカー51社を数え、6支部をもつ全国組織に発展、施工業者の日本シーリング工事業協会(会員190社)とは材工一体の精神に立脚し、シーリング工業の振興と施工技術の向上発展とを計り、今日にいたり、さらに、新JISの作成、JASSの改訂に当り委員を送り協力し、さる47年施工技術の向上を計るため、日本シーリング工事業協会に所属する会員を対象にし、自主認定のシーリング管理士制度を制定し、教育訓練を実施し、さらに一層のレベルアップを計るため1級管理士を設け、全国各地において活躍中の旨報告、今後、本懇談会を定期的に開催し、より一層の指導協力を要請した。

〈懇談会の運営に関する提案〉

現在、学界、ゼネコンにおける研究は若年技術者を中心に行われている。今後、それらの優れた研究者を含め懇談会を開催し成果を挙げるべきでないか。

また、さらにメーカーの若年研究者をも含め交流を深めた懇談会を開催してはどうか。

業界の中では「雨仕舞」に関する責任分担が必ずしも明確ではなく、今後、それぞれの役割の中で、その責任の明確化が進められている。

また、先生方から、材料メーカーは、材料の欠点・使用上の注意事項等ももっとパンフレットの中で明確に記載すべきであるとのご指摘があった。

今後、保証期間と設計耐久期間の明確化・有償保証と無償保証、気象条件・設計条件等との関係を明確にしてゆく必要性が指摘された。

〈シーリング管理士制度について〉

目下、1級シーリング管理士70名、2級シーリング管理士363名が全国各地の日本シーリング工事業協会会員会社に所属し活躍中であり、本制度の現状と今後の方向について、大要次のようなご意見ご指摘があった。

- ◎本制度は広く官公庁、設計事務所、ゼネコン方面に普及し、工事業者指定の際に利用され、ようやく定着しようとしている点を高く評価する。
- ◎資格取得を日本シーリング工事業協会会員会社のみ限定せず門戸を開放してよいのではないかと、例え

ば、大型工事はメーカーの直接管理を必要とする場合もあるので、メーカーの担当者にも資格を与えるべきではないか。

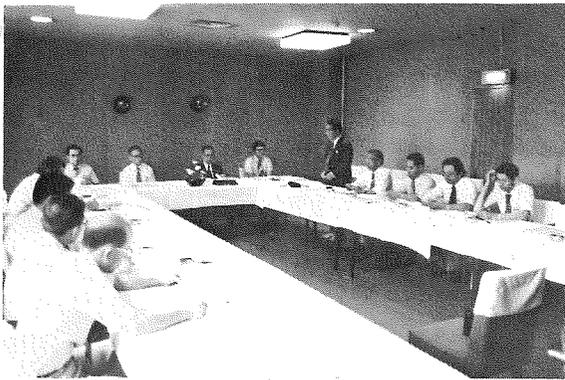
◎54年3月頃、国家認定の防水技能士が誕生し、防水技能士はいわゆる職人であり、シーリング管理士とは、その職務内容が異なっている。今後両者はあい携えて行かねばならない。また、より権威ある公的資格をもって行く準備をする必要があるのではないかと提言があった。

〈新需要について〉

シーリング材は建築用、土木用、自動車用、電機用等に広く使用されているが、近年、シリコン、アクリルシーリング材、油性コーキング材等が補修用、家庭用の分野でも、デパート、塗料店、金物店等で市販されている。しかし、家庭用としては一般になじみが薄いので日本建設材料協会の建材展示室の利用、日曜大工コーナーの実演室への参加等を通じ、積極的にPRを行ってはどうかとの提言があった。

外部講師との懇談会開催

(1級シーリング管理士講習会)



日本シーリング工業会は、工事業者中の中堅指導者を養成しシーリング工事における施工技術の向上と工事管理体制の強化を計るための、47年より自主認定のシーリング管理士制度を設け毎年日本シーリング工事業協会に所属する業者を教育養成してきた。今日、国家認定の防水技能士誕生を機会に、レベルアップを行うため新たに1級シーリング管理士制度を設け、本年3月、第1回1級シーリング管理士講習会を開催し、70名の合格者を出した。

日本シーリング工業会と日本シーリング工事業協会関係者は本講習会の中心となった講師を招いて、管理士の職務能力の向上、カリキュラムの編成・教育内容その他について、適切なお意見と重要な指摘があり、その大要は次の通りであった。

〈職務能力の向上について〉

1級管理士は、資格取得後も日常の仕事を通じ自己のレベルアップを求めるべきであるが、工業会、工事業協会は再教育等の機会を通じ、施工要領書の作成、設計、コンサルタント能力の向上、人間性を高めるために、リーダーシップコミュニケーションの育成に努め教育訓練を実施し、より高度の管理能力の付与を行うよう指摘された。

外部講師

三井建設(株)・長井 隆寿
清水建設(株)・松本 洋一
不二サッシ(株)・朝比奈和郎
板ガラス協会・竹内 嘉彦

内部講師

紺家 正 (日本シーリング工業会技術委員)
宮下 博文 (同)
筈 皓一郎 (同)
伊藤 松夫 (同)
板倉 健 (同)
木田 茂 (同)
水野 和男 (同)

日本シーリング工業会役員

青木 清 (会長)
梅沢 芳朗 (副会長)
梅本 禎治 (同)
御影 博 (総務委員長)
西沢順之助 (技術委員長)
金子 譲 (広報委員長)
細井 庸生 (同副委員長)
日本シーリング工事業協会役員
山本 勇 (会長)
松下 実 (副会長)
操上 弘昌 (技能検定委員)
加藤由之助 (同)

日時・場所

7月22日午前10時～12時
東京・銀座オリンピック

〈カリキュラムの編成について〉

実情、実務に即し、カリキュラムを編成し、講習会開催に当っては、合宿等の即実践的方式を採用し、下記事項を付加し教育効果を高めるべきであると指摘された。

◎実際の図面、施工要領書の作成

◎JASSの問題、現場トラブル問題の討議、随時必要に応じ討議方式を採用し成果を挙げるよう配慮する。

◎合宿等により、時間を節約するとともに受講者相互の交流の機会を設定すべきではないか。

〈教育内容その他〉

現テキストを再検討し、教科間の内容のバラつきを調整し、より理解し易いものに作りかえる。

工事業協会は、自己研さんを目的とした管理士会(仮称)を組織し、有効的な活用を計る明確な目標を設定し実施スケジュールを持つことの必要性を指摘された。

また、シーリング管理士制度を、将来公的資格に移行させるか、どうかを検討することとなった。

業界動向

展望

53年の建築業界は、総じて52年の低迷より脱け出し、上昇への気配を示そうとしている。建築着工の伸びにともない、サッシ、カーテンウォール、ALC、板ガラス等の関連業界もいづれも伸びを示しているが、従来わが国

の建築産業は大別して、民需7、官需3の需要構造により支えられていたことを考えるとオイルショック後の長い不況により、民間設備投資の不振が、本格的回復を遅らせている最大の原因となっているのではなかろうか。

建築着工

	51年	52年	53年 (1~4月)
不燃建築 (床面積)	11%	4%	2.6%
木造建築 (床面積)	9%	-2%	10.2%
新設住宅着工 (戸数)	13%	-1.3%	4%

対前年比伸び率（建築着工統計による）

- 不燃建築は51年に11%と大幅に伸びたが、この伸び率は52年・53年（1～4月）ともに鈍化し暫増にとどまっている。
- 木造建築の52年はマイナス2%となり低迷し、不満足な結果に終わったが53年（1～4月）は公共投資の影響を受け対前年比10.2%の大幅な伸びを示したが、この増勢を今年後半に

持続することが期待されている。

- 新設住宅の着工戸数の51年の伸び率は13%と大幅な伸びを示したが、52年はマイナス1.3%と低迷し、53年（1～4月）は4%と暫増している。これは公共投資の影響によるものと思われる。新設住宅の戸数は当分の年間150万戸台を推移するものと考えられている。

カーテンウォール

メタルカーテンウォールとコンクリートカーテンウォールとも、販売統計が出ていないが業界有力筋の見積書引合い状況等よりの推測によると。

- メタルカーテンウォールの52年の状況は、対年比、横バイないしはやや低迷と見、53年（1～5月）は見積書引合いが増加し、上昇の気配にあるものと推測している。引合いの増加が即、物件につながるか否か危惧の点を抱くむきもあるが、ようやく低迷

期を脱したと考えられる。

- コンクリートカーテンウォール引合い状況などで推測すれば、50年100とした場合、51年105%、52年110%、53年（1～5月）115%と暫増し、メタルカーテンウォールに比し、コスト安の影響を受け、明るさを増している。
- なお、今年度に入って、新宿センタービルをはじめとして、雨仕舞、気密性保持の構法としてのオープンジョイント構法が設計に導入されるようになり、シーリング材機能の評価が変化してきている。

サッシ

52年のサッシの出荷数量（各種合計）は44万5千tでマイナス2.5%と僅かながら減少した。51年は木造住宅用の雨戸、戸袋付サッシの新製品の発売により、大幅な需要となったが、需要一巡により、52年度は需要不振により伸び悩みとなって現われ、53年度はほぼ横バイと推定される。

52年のサッシ出荷量は…

木造用 72% ビル規格用 10%

公共住宅用 2% オーダー用 16%

このうちシーリング材と関係のあるものは、ビル規格用、公共住宅用、オーダー用のサッシで、全体の28%を占めている。なお、上記三者の53年（1～5月）の出荷量の伸び率は対前年同期比で

ビル規格用 5% 公共住宅用 8%
オーダー用 8%

と木造用サッシのマイナス1.6%にもかかわらず増加し、明るさを増している。

A L C

A L Cの52年度出荷量は対前年比99.6%とほぼ横バイに推移したが、53年1～5月の間は対前年同期比6%の出荷増を示し、殊に2～5月の間は各月10%以上の増加、5月はつい

にオイルショック以前の12万8千㎡/月を突破した。

A L Cの出荷量は例年10、11月頃をピークに上昇し続けるのを例としているので、本格的回復の基調を示したものとして、今年後半の動向に期待されている。

ガラス

主として、シーリング材と関係ある「フロート」「みがき板ガラス」の出荷量を見ると、52年は対前年比27%の伸びを示し、53年(1

～5月)は対前年同期比175%と著しい伸びを示した。その原因は自動車用、輸出用の季節的増加と不燃建築の若干の伸びによるものと推測される。

■シーリング材の動向■

雨仕舞に対する防水意識の向上に伴い、建築用シーリング材の長期経済性、耐久性能等の見地より、より適切なシーリング材の選択が行われ、急速に量より質へと弾性シーリング材へ移行してきている。

ど、シーリング材の需要は増大の傾向にあるものと推定されている。

しかしながら、現在、過当競争により価格が不安定に変動してきており、厳しさを増している状況にある。

さらに、単位面積内のシール部分の増加な

●基材別シーリング材の動向●

項目	最近の動き	今後の動き
ポリサルファイド	51～52年の間の出荷量は、ほぼ横バイないしは微増にとどまっていたが、53年に入りやや上昇の気配が感じられ前年度の低迷と不振を回復した。順調な伸びを示している。	大きな伸びは期待できないが、53年上期同様、上昇の傾向を示し、順調に伸びていくものと思われる。
シリコーン	1成分形の出荷量は前年同期比、ほぼ横バイないしは微増にとどまっていたが、2成分形は著しい伸びを示し好調を保持している。伸び率ではシーリング材中トップにある。	1成分形は、53年上期と同様の経過をたどるものと思われる。2成分形の伸びは、予測では40%以上に及ぶのではないかと注目されている。
ウレタン	53年上期出荷量は、前年同期比よりやや上昇している。P C、プレハブを中心に需要は順調、打継ぎ目地、サッシ廻り、P C、カーテンウォールにも需要が出てきた。	新需要で、どれだけ伸びるか注目に値する。安定した傾向を保ちつつ好調に推移していくものと思われる。
アクリル	別記の通り、主用途であるA L Cは、51～52年はほぼ横バイに終始し、53年の出荷量は漸次、増加の傾向を示している。今後も引続き期待されるので、アクリルの今後は極めて明るくなった。	A L Cの好調とともに、下期は、上期以上にさらに需要が増加し、おおいに期待される。
油性	年々、若干量の落ち込みを示し、弾性シーリング材への転換が行われている。	量より質への移行の時代を迎え、若干の落ち込みはやむを得ないのではないかと、伸びの期待はできない。

本部だより

ごあいさつ

日本シーリング工業会
会長 青木 済

本誌は当工業会の広報誌として、52年7月より年4回発行、会員会社相互のコミュニケーションの場として重要な役割を果たしてきました。

今回、装いを新たにし、本夏季号より関連業界の皆様のお手許にお送りし、皆様方と当工業会とのコミュニケーションの場とし交流を計りたいと存じます。

つきましては、本誌を通じて御指導御鞭撻をいただきたく、今後ともよろしく願いいたします。

■事務局だより■

○さる5月16日東京・原宿の東郷記念館において第15回

総会を開催した。冒頭、青木済会長が挨拶に立ち、52年度の活動状況について述べられた。議事に入り、52年度事業報告、同決算報告ならびに53年度事業計画、同予算案がそれぞれ報告、承認された。役員選出で、会長に青木済氏が再選され、副会長には日東ポリマー工業(株)・梅本慎治氏、横浜ゴム(株)・梅沢芳朗氏が選出された。今年度は「外部有識者との交流」を中心に進めていく方針。

○当工業会は7月21日、東郷記念館にて、工業会相談役伊藤憲太郎先生、顧問波多野一郎両先生をお迎えして懇談会を開いた。建築業界におけるシーリング工事の位置づけ、今後の展開をどう推し進めていくべきか等意見が交わされた。シーリング管理士制度の地位向上をめざして、各関連筋に働きかけていきたいとしている。(本誌紹介)

○また、7月22日東京銀座・オリンピックにて、1級シーリング管理士講習会講師を迎えて、管理士教育全般にわたり意見を拝聴した。(本誌紹介)

随想

聞 聴 音 声 字 文章

日本シーリング工業会大阪支部長
山本 照 夫

書頭の各組、何れも同一意味の様な気もするが、実態を分析すると、区分が明確になる。その発見を述べると聞(キク)とも読むが、元はキコエルであって聴(キク)は内容を能く理解しながら聴く、自らが耳を傾けて心に聴くとのことである由。序でに横道になるが世間で挨拶のとき、心よりお礼申すとか、祝意を表すなど言うが礼とか祝意などは、自から心で述べるのは当然で「心」からと言うのは、誰かが言い始めたのを真似している感がある。このときは衷心(ちゅうしん)よりと述べるべきで、心の今一段奥である。この例から見ても同じ感受にも深淺がある。併し「聞」であっても、サイレンや汽笛にけたたましさを感じ、鐘の音に信仰を覚え、風鈴に涼味あるなど感応なしとは言えない。聴心一如の精神が鋭敏な賢者を生む。

次は「音」、一般には、これ又音声と言って区分に無

関心であるが、宇宙万物の中で動物以外の物から発音したものは「音」、動物が喉から発生させたものは「声」であると思う。鐘の音、滝の音、風の音、楽器の音、機械の音、動物から出ても、足音とか手拍子などは音としてよく判る。蟬、コオロギ、キリギリス、クワガタ等は羽の操作である妙音を出す、これは昔から鳴いているものと思つて習慣上、虫の音(ね)とも声とも言う。声は元来、動物の同族間の意志を相手に伝える音波であつて鶯や鶏の啼鳴には人さえ感動するもあり、馬のいな鳴きは飼主の足音に感応を示し、犬もまた周辺異様の度びに吠える。ましてや人は、聴が知識の根源であると言えるであろう喜怒哀楽もこれに起る。

次に「字」は、漢字の場合は一字にても意味を持つので文章と言へるかも知れない。仮名字アルファベットは単なる字であるが、是れを書き連ねて文章が生れる。文章も声と同じく人間にのみに通じる相互の意志表示である。最近、録音によって没後も残遺可能にはなつたが、筆述の評細には及ばない。

茲にシーリングニュース誌の増頁発刊に際して、聴視何れも心底に達せねば、松籟風鈴の音に等しと解して、熱意熟読を祈つて一筆を呈します。

日本シーリング工業会会員

アサヒボンド工業(株)	昭和石油アスファルト(株)	(株)東京ボース工業社	(株)ノーベル樹脂化学
イイダ産業(株)	シャープ化学工業(株)	トーレ・シリコン(株)	(株)服部商店
(株)エービーシー商会	信越化学工業(株)	(株)日興社	早川ゴム(株)
小野田建材(株)	新東洋合成(株)	日新工業(株)	保土谷建材工業(株)
カネボウエヌエスシー(株)	住友スリーエム(株)	日東化成工業(株)	ボスチック・ジャパン(株)
鐘紡合成化学(株)	(株)スリーボンド	日東ポリマー工業(株)	三井日曹ウレタン(株)
関西パテ化工(株)	世界長(株)	日本合成ゴム(株)	三星産業(株)
栗山ゴム(株)	セメダイン(株)	日本シーカ(株)	明星チャーチル(株)
コニシ(株)	ソニーケミカル(株)	日本添加剤工業(株)	モルナイト興業(株)
三英ポリマー工業(株)	大和高分子工業(株)	日本合成化学工業(株)	山内ゴム工業(株)
サンスター化学工業(株)	武田薬品工業(株)	(株)日本化学研究所	横浜ゴム(株)
三洋工業(株)	テイパ化工(株)	日本特殊塗料(株)	ラサ合成樹脂(株)
鐘栄産業(株)	東芝シリコン(株)	日本ペルノックス(株)	

日本シーリング工業会の所在と組織

本部	東京都千代田区外神田2-2-17共同ビル	電話	03(255)2841~2
名古屋支部	名古屋市千種区井上町34 セメダイン(株)名古屋支店内	電話	052(781)3166
大阪支部	大阪市西区江戸堀1-5-13(日日会館ビル) 日本添加剤工業(株)大阪支店内	電話	06(443)6231
福岡支部	福岡市博多区綱場町2-2(福岡第一ビル) 信越化学工業(株)福岡支店内	電話	092(291)8442
広島支部	広島市鉄砲町5-16(サンケイビル) 横浜ゴム(株)広島支店内	電話	0822(27)8100
北海道支部	札幌市中央区大通東7丁目 ヨコハマゴム工業品北海道販売(株)内	電話	011(241)5111
仙台支部	仙台市萩野町3-1-8 ヨコハマゴム工業品東北販売(株)内	電話	0222(94)0437

会長 青木 済 副会長 梅沢芳朗・梅本禎治

総務委員会	ポリサルファイド分科会	アクリル・SBR分科会
技術委員会	シリコン分科会	ブチル分科会
広報委員会	ウレタン分科会	油性分科会
シーリング管理士検定委員会		

日本シーリング工業会

東京都千代田区外神田2-2-17 共同ビル

TEL 03(255)2841~2

企画制作・日本シーリング工業会広報委員会

編集協力 (株)工文社 東京都千代田区外神田2-1-6

TEL 03(253)4230・3835